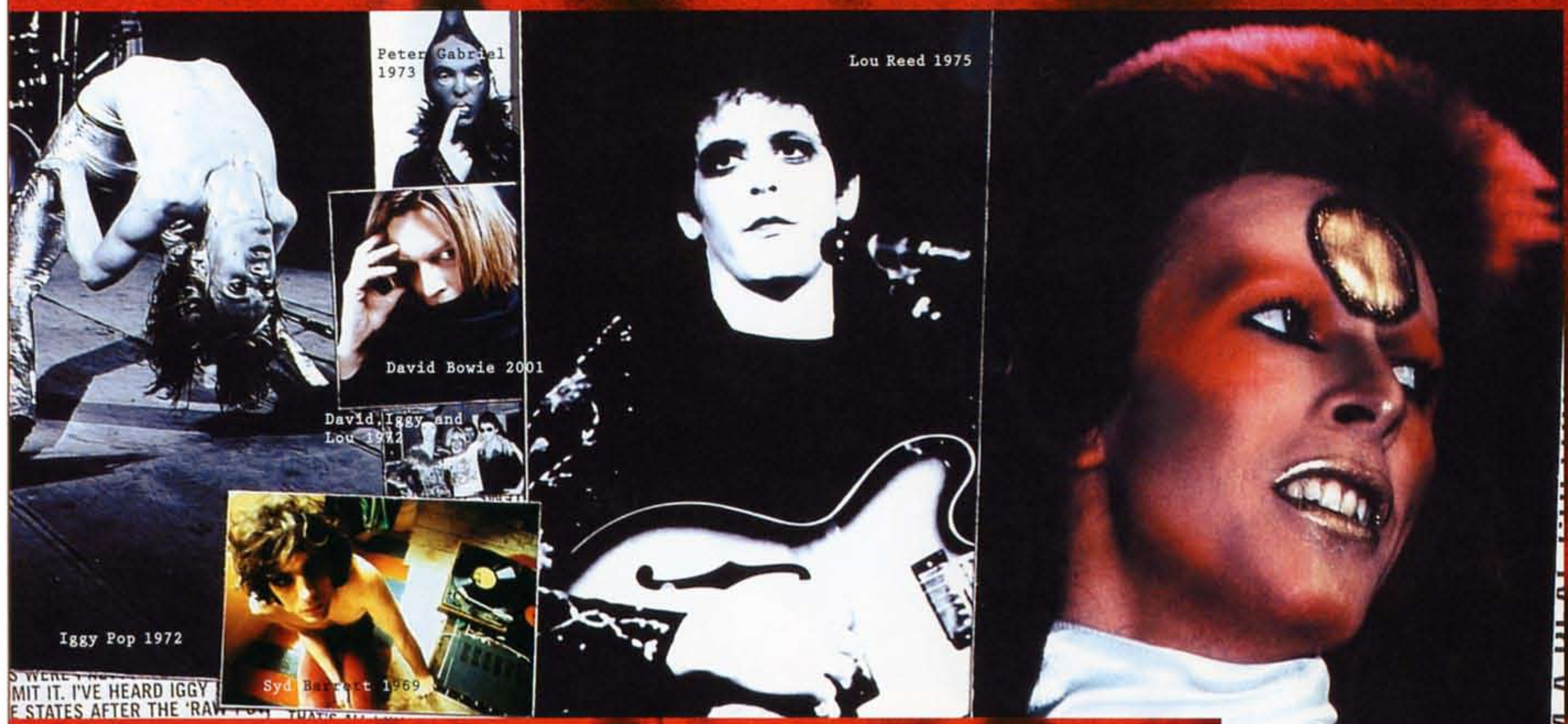
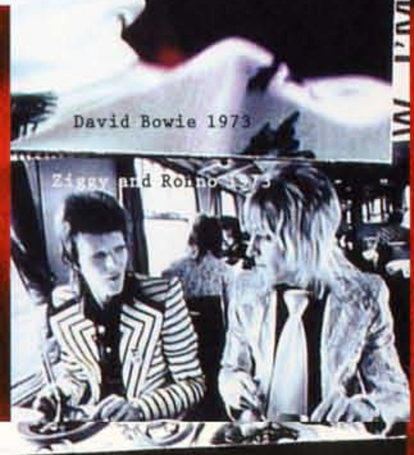
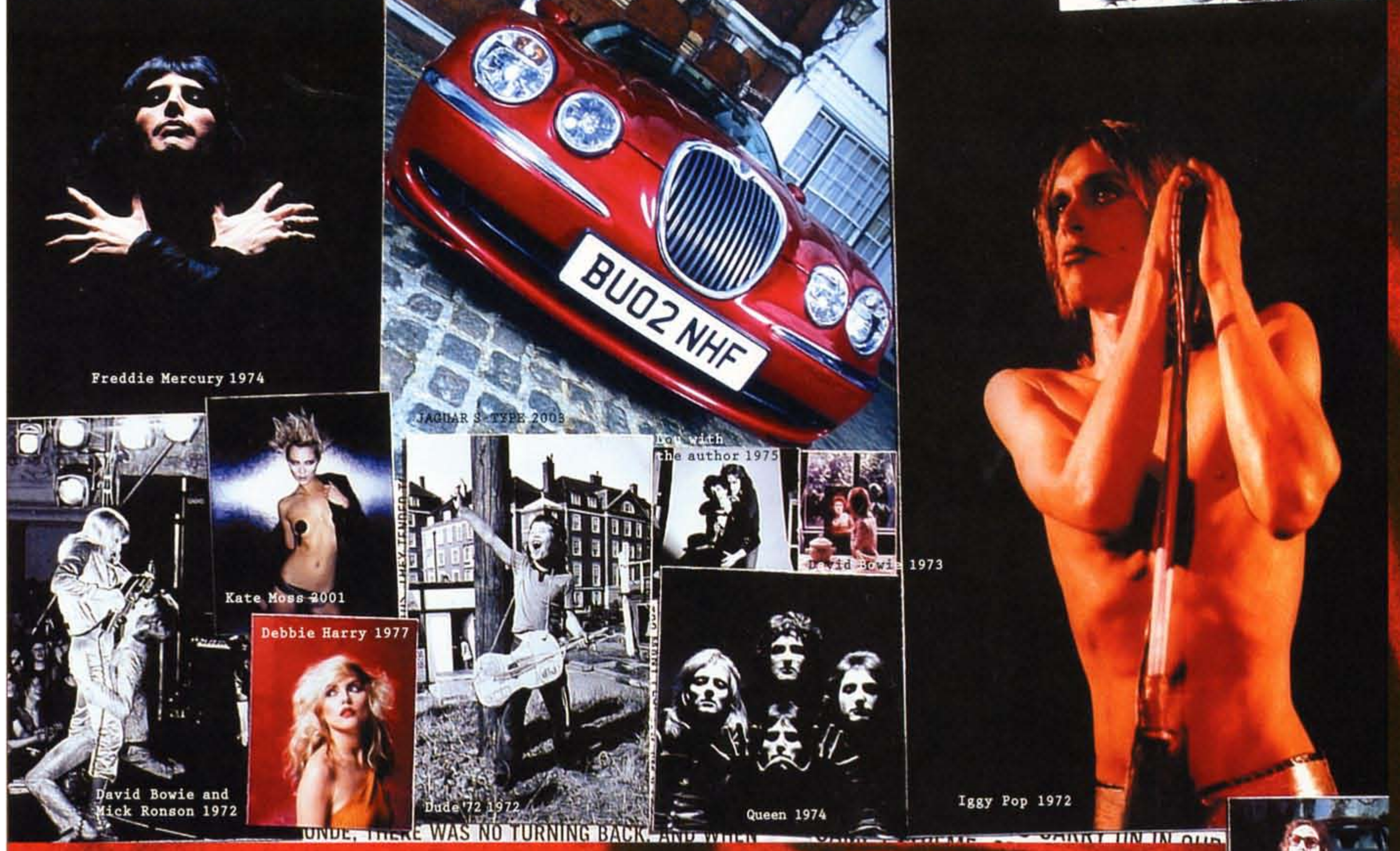
2003.7.18(FRI)-8.28(THU)

写真家ミック・ロックがとらえたロックスターたちの光と影とその時代。**ミック・ロック写真展**


Peter Gabriel 1973
Lou Reed 1975
David Bowie 2001
David Iggy and Lou 1972
Iggy Pop 1972
Syd Barrett 1969
IT. I'VE HEARD IGGY
STATES AFTER THE 'RAW

ROCK'N' ROLL EYE
The photography of Mick Rock


David Bowie 1973
Ziggy and Ronno 1973


Freddie Mercury 1974
JAGUAR S TYPE 2003
BU02 NHF
Lou with the author 1975
David Bowie 1973
Kate Moss 2001
Debbie Harry 1977
Dude '72 1972
Queen 1974
Iggy Pop 1972
David Bowie and Mick Ronson 1972
UNDE, THERE WAS NO TURNING BACK, AND WHEN

Mick Rock 2003

東京都写真美術館3階展示室　10:00-18:00（木・金は20:00/入館は閉館の30分前）**月曜日休館**（7/21は除く7/22休館）

一般1,000円（前売/団体900円）中高大生800円（前売/団体600円）

＊小学生以下は無料＊障害をお持ちの方とその介護者一名は無料.（障害者手帳要）＊東京都写真美術館友の会会員の方/団体20名以上の場合は前売り価格
＊第三水曜日は65歳以上無料（証明するものをご持参下さい）

チケット発売日 2003年4月8日(火) チケットぴあ/ローソンチケット/イープラス/JCBチケットセンター（7/17まで発売）
JR東日本のみどりの窓口、びゅうプラザ（一部お取り扱いをしない駅がございます）/東京都写真美術館ミュージアムショップ
主催：朝日新聞社　共催：東京都写真美術館　後援：TOKYO FM　協賛：ジャガージャパン ほか　特別協力：　企画制作：conversation

---

60年代の終わりから80年代にかけて圧倒的な存在感を放ったロックスター達。その才能を凝視し、記録し続けた写真家Mick Rock。

ROCK'N' ROLL EYE
The photography of Mick Rock

ロックがセンセーショナルな輝きを放っていた時代の疾走感、退屈を忘却の彼方へ葬り去ろうとしたロッカー達の姿をとらえたMick Rockによる貴重なオリジナルプリントはもとより、ライティング・ワーク、ビデオ、タイポグラフィ等を効果的に駆使した会場構成。それはあたかも、バックステージから煌びやかなステージに立つミュージシャンを眺めているという錯覚を覚えさせる。

―ここにはロックが最も牙を剥いていた時代の空気がある―

エロスと背徳性

デヴィッド・ボウイやルー・リード、イギー・ポップ、ミック・ジャガーといった70年代のロック・スター達が身をくねらせるミック・ロックの写真は、今のロックの写真とは本質的に何かが違う。今のロック写真のようにただ「撮られて」いるのではなく、モデル達がこちらに向かってエロスと背徳性を放射しているのだ。

山崎 洋一郎（rockin'on）

MICK ROCKありがとう！

伝説のヒーロー達を、誰よりもかっこ良く、銀色に輝かせたMICK ROCK。
彼の作品から学んだ事は数知れません。
HYSTERIC GLAMOURをイメージしていく上でも、
重要な要素の一つにさせていただいてます。
MICK ROCKありがとう！

HYSTERIC GLAMOUR 北村 信彦

ミック・ロックの写真に秘む甘い毒の効能

ミュージック・シーンには10年ごとに時代を代表するスーパースターが生まれると言われ、40年代はフランク・シナトラ、50年代はエルヴィス・プレスリー、60年代はビートルズ・・・でも70年代は、となると、誰とは限定できないというのが大方の意見だったが、ミック・ロックの美しい限定版の写真集「Moonage Daydream」と「Blood And Glitter」を見終えて、70年代はデヴィッド・ボウイがいる！と声高に言いたいと思った。

本当に宇宙から地球に降りたったと思えるジギー・スターダストを演じるデヴィッド・ボウイの存在感と独創性。エルヴィスやビートルズと同じように、ボウイがいなかったら、その後のロック・シーンは随分と違っていたものになっていただろうが、ミック・ロックが撮ったボウイの写真はロック・シーンにおけるヴィジュアルの重要性というものを理屈抜きで証明しているのである。

そして僕がミック・ロックという「ラスト・タイクーン」でロバート・デ・ニーロが演じたモンロー・スターに勝るとも劣らない象徴的な名前の写真家の作品を魅力的だと思うのは、そこに漂うデカダン的な匂いだ。ボウイは勿論のこと、クィーンにブライアン・フェリー、ルー・リード、知る人ぞ知るスティーヴ・ハーレー・・・。僕のロックについての美しい記憶をたどると、そこに出てくるアーティストの写真の下か横にはいつもミック・ロックの名前があった。

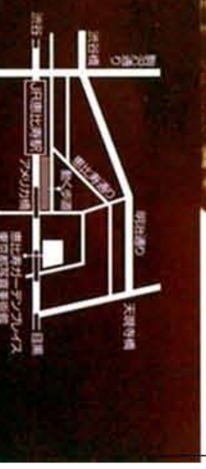
だから、ミック・ロックの写真を目にするだけであの時代にトリップできたのだろう。その写真をオリジナルプリントで見ることができる写真展の日本での開催を心から歓迎するとともに、僕はボウイの名曲「スペイス・オディティ」ではないが、楽しく無軌道に輝いていた70年代に連れていかれて、迷子になってしまうのではないかという恐れを抱いたりもする。ともあれ、それはミック・ロックの写真に秘む甘い毒の効能なのでもある。

立川直樹（プロデューサー）

すべてがROCKの時代。
それを生み出したエネルギーは
強烈な出会いであるかのように
MICKの写真は、
トキをも超えるように写された人をも
一枚いちまいの写真に凝縮する。
そのベストハンティングを、
いまさらながら、凄いと思う。
冨永 よしえ（フォトグラファー）

PROFILE　本名、マイケル・デイヴィッド・ロック。ロンドン生まれ。ケンブリッジ大学で現代言語学を専攻。大学時代に出会ったシド・バレットに魅せられ写真を撮り出す。その後、ロンドンのフィルム・スクールに進むが、ヒプノシスやローリング・ストーン誌等の仕事を通し、ピンク・フロイドやデヴィッド・ボウイ等のミュージシャンの写真を手掛けるようになる。60年代後期から70年代初・中期にかけて、グラム・ロックのアーティストを中心に、ポップ/ロックのミュージシャンを数多く撮影する。77年、活動の拠点をニューヨークに移し、ブロンディー、トーキング・ヘッズ、ラモーンズなど、アンダーグラウンド・シーンのアーティストにいち早く関わってもいる。

［チケット発売日］　2003年4月8日(火)　★チケットぴあ　Pコード：［前売］684-105［当日］684-106
（コンビニエンスストア/セブン・イレブン、ファミリー・マートにて発売）
★ローソンチケット　Lコード：［前売］36437［当日］36438（コンビニエンスストア・ローソンのLoppiにて発売）
★イープラス http://eee.eplus.co.jp ★JCBチケットセンター 0422-48-9999（7/17まで発売）
★JR東日本のみどりの窓口、びゅうプラザ（一部お取り扱いをしない駅がございます）★東京都写真美術館ミュージアムショップ
総合お問い合わせ：conversation TEL:03-5280-9996 http://www.conversation.co.jp


渋谷橋
渋谷
JR恵比寿駅
アメリカ橋
恵比寿ガーデンプレイス
東京都写真美術館
天現寺橋
目黒

東京都写真美術館
〒153-0062
東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
アクセス：JR恵比寿駅東口より徒歩7分
TEL：03-3280-0099
http://www.syabi.com